

実践報告資料

研究テーマ『相互に人権を尊重し合う社会の実現に向けて、自ら判断し行動できる生徒の育成をめざして』
 研究内容【(1)、②、(3)、④】

学校名（ 丹波篠山市立篠山東中学校 ）

ア 人権教育としてのねらい

生徒会が主体となる活動、家庭への適切な情報提供による啓発、人権意識を土台とした道徳教育の充実により、自らの行動が他者の人権に与える影響について考えさせ、人権意識の向上を図り、自他の人権を尊重できる生徒の育成をめざす。

イ 研究の概要

いじめ問題の未然防止または解決に向けて、「いじめゼロ宣言」「情報機器取扱宣言」等のルール作りや、毎年開催している「人権教室」の企画運営に生徒会がより主体的に取り組めるようにすることで、「自分たちの人権は自分たちで守る」という意識の高揚を図る。また、丹波篠山市スクールロイヤーと連携し、ネットトラブルの加害者・被害者にならないための適切な情報を家庭に発信し、「未然防止の土台は家庭である」という意識付けを行う。同時に、義務的に人権を守ろうとする消極的思考から、「人権を守りたい」「誹謗・中傷を書きたくない」という積極的思考へと移行していくために、道徳の授業においても、「生徒自身の生き方と繋ぐ授業」をめざして研究を進めていく。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	3年社会科担当	推進教員	全職員	丹波篠山市スクールロイヤー
実施日	7月11日	12月15日	12月15日	11月8日
取組名	「侮辱罪の法定刑引き上げ」について考える。	同和学習 (結婚差別)	第2回 生徒会人権学習会	スクールロイヤー 親子学習会
目標	人権保障の取組の様々な側面を各自で調べ、交流することで、人権意識の幅を広げる。	部落差別が人々の幸せを阻むことに気付き、仲間と共に差別を解消しようとする意欲を育む。	自分の感覚と相手の感覚の違いを知り、相手の立場に立った言動を考える。	ネットトラブル・いじめの現状から、加害者・被害者にならないための未然防止を考える。
資料名	自作ワークシート	「祭りばやしが聞こえる」 『きらめき』(県教育委員会)	自作ワークシート	スライド (スクールロイヤー作)
指導内容や指導方法の工夫等	「侮辱罪法定刑引き上げ」の内容と意義を、各自がタブレット端末で調べる。 法定刑の引き上げにより、どのようなことが心配されるようになったかについても調べる。 調べた内容と意見・感想を記録し、他者と交流する。 最終的に人権保障のために大切だと考えたことを記録する。	事前に社会科の授業において、「平成28年度篠山市人権意識調査」の結果の考察を行い、主体的に人権学習を積み重ねてきた人々が差別を許さない意識が高いことに気付かせる。 結婚差別の解消が同和地区の人だけでなく、全ての人の幸せにつながることで、解消の主体は自分自身であることに気付かせる。	1～3学年を1学期の第1回人権学習会(縦割り交流会)と同様の8班編制とする。 各班で、生徒会「いじめゼロ宣言」「情報機器取扱宣言」に個人目標が記入されているかを確認する。 生徒会役員が、事前に考えた「人権侵害になり得るシチュエーション」について各班で話し合う。 班別活動終了後、各班で話し合われた内容を全体会で共有する。 全体会終了後に各自が感想を書く。	①18歳成人に向けて、契約にまつわるトラブル ②ネットゲームをめぐるトラブル ③出会い系、マッチングアプリ、SNSに関するトラブル ④情報発信にまつわるトラブル ⑤メール、スパム、迷惑トークに関するトラブル ⑥スマホ特有のトラブル ⑦被害者、加害者にならないために ⑧終了後、教室で感想を書く 講演内容①については高校での指導につなぐために、講師と相談の上で追加した。

